



あいちエコモビリティライフ促進モデル事業報告会

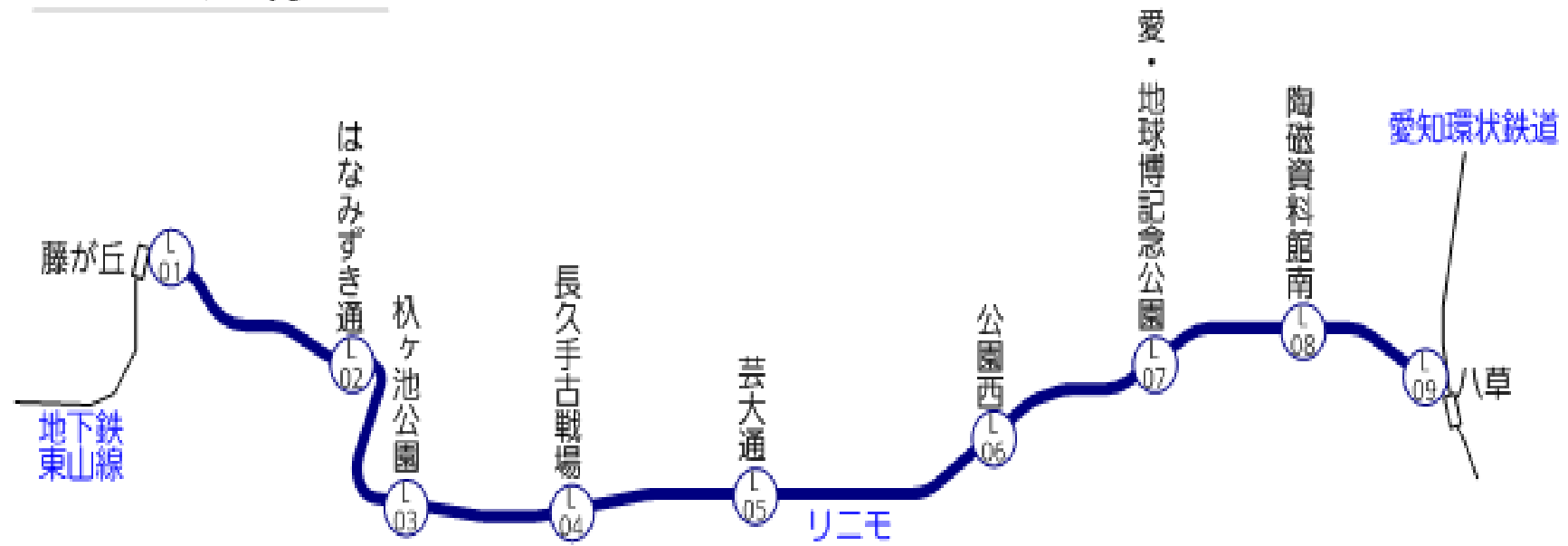
# 「リニモとことん語る会」

—交通まちづくりからエコモビリティライフを考える—

2010.03.19

リニモねっと・島田善規

# リニモ路線図



# リニモ と 愛・地球博

万博終了後は・・・17,000人/日近く(今年度?)



## リニモの収支状況(H20)

営業費用	3,174 <sub>百万円</sub>	営業収益	1,094
内 減価償却費	2,023		
営業損失	△2,080		
内 支払利息	308		
<b>当期純損失</b>	<b>△2,374</b>		
流動資産	2,511	流動負債	1,624
固定資産	23,458	固定負債	22,401
		資本金等	4,319
		利益剰余金	△2,374
		純資産合計	1,944

リニモは万博のために  
つくったもの、  
地元赤字を押し付け  
るのか！という批判

# リニモ沿線でのエコモビの特殊性

エコモビを進めよう

公共交通などの利便性

公共交通を活かした  
まちづくり

ライフスタイルの変容

しかし、  
リニモには  
問題がある、  
という批判

リニモの活性化にも  
冷ややかな視線

リニモ沿線でのエコモビは、単純な  
話では進まない、ではどうすれば良いか？

# リニモ沿線でのエコモビの進め方

住民と沿線施設利用者のライフスタイルを変える運動

+

リニモとリニモ活性化の評価についての合意をつくる運動

新しい実験的手法の開発

課題の**共有化**と**合意形成**を重視した手法

市民による行政の**政策評価**という視点からの手法

自分の交通行動を**交通サービス**と**関連**して考える手法

リニモの評価と交通行動の変化を期待できる？

## 「とことん語る会」とは具体的に何をやったか

- ・運営委員会立ち上げ(6人) 無作為抽出ではない
- ・「とことん語る会」参加者を公募(14人)

- ・数回(7回)のワークショップ形式の話し合い

### テーマ「リニモ・コンパクトシティづくり」

リニモ沿線を環境にやさしく、住みよいまちにしよう！

そのまちで環境に配慮したライフスタイルを実現しよう！

- ・論点を整理する資料、詳細な基礎的資料の提供

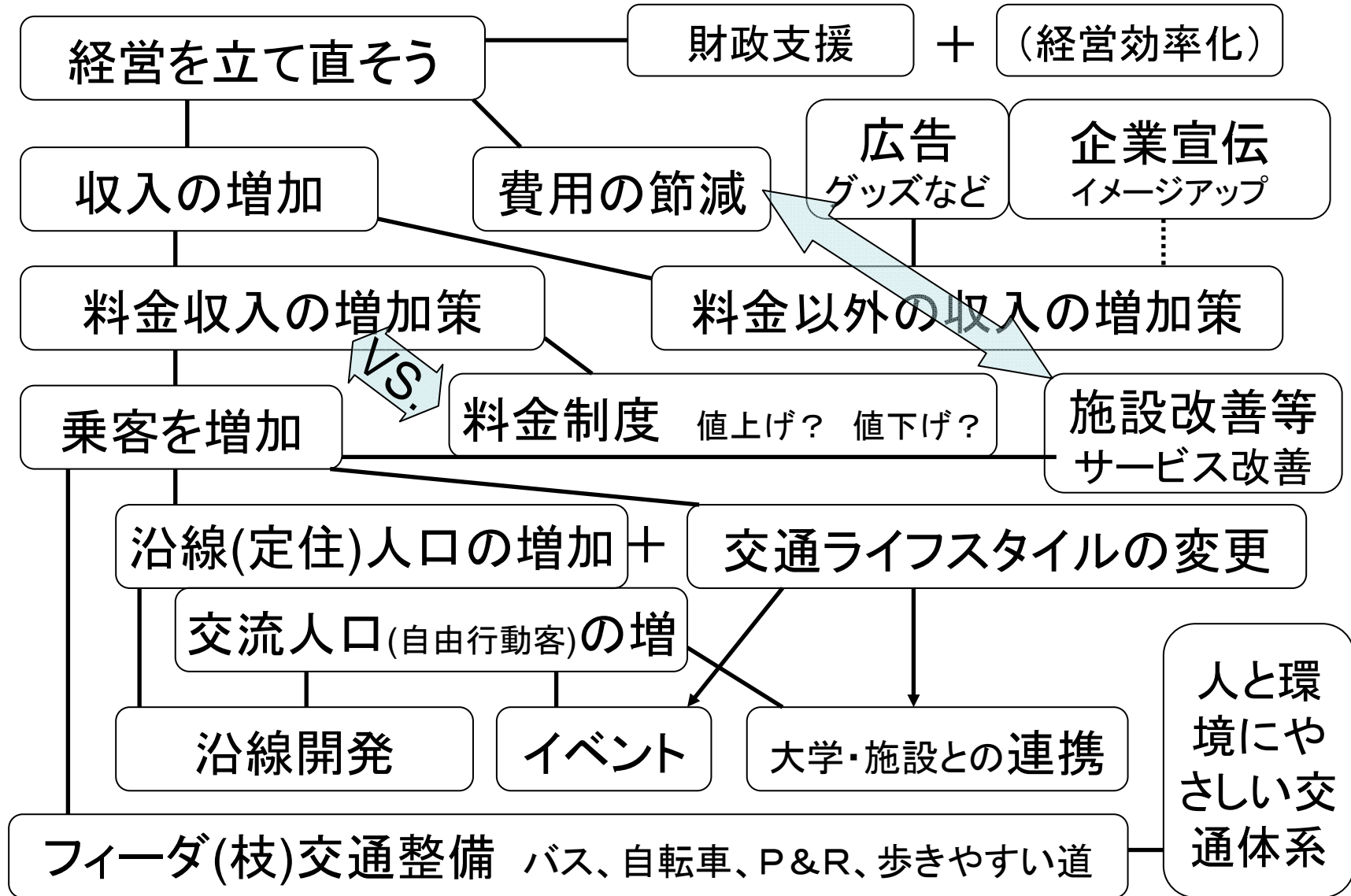
- ・討議 ⇒ 専門家への質問書の作成 ⇒

専門家のプレゼン(講演会2回含む) ⇒ 討議 ⇒

- ・協働実施を含む提言書の作成

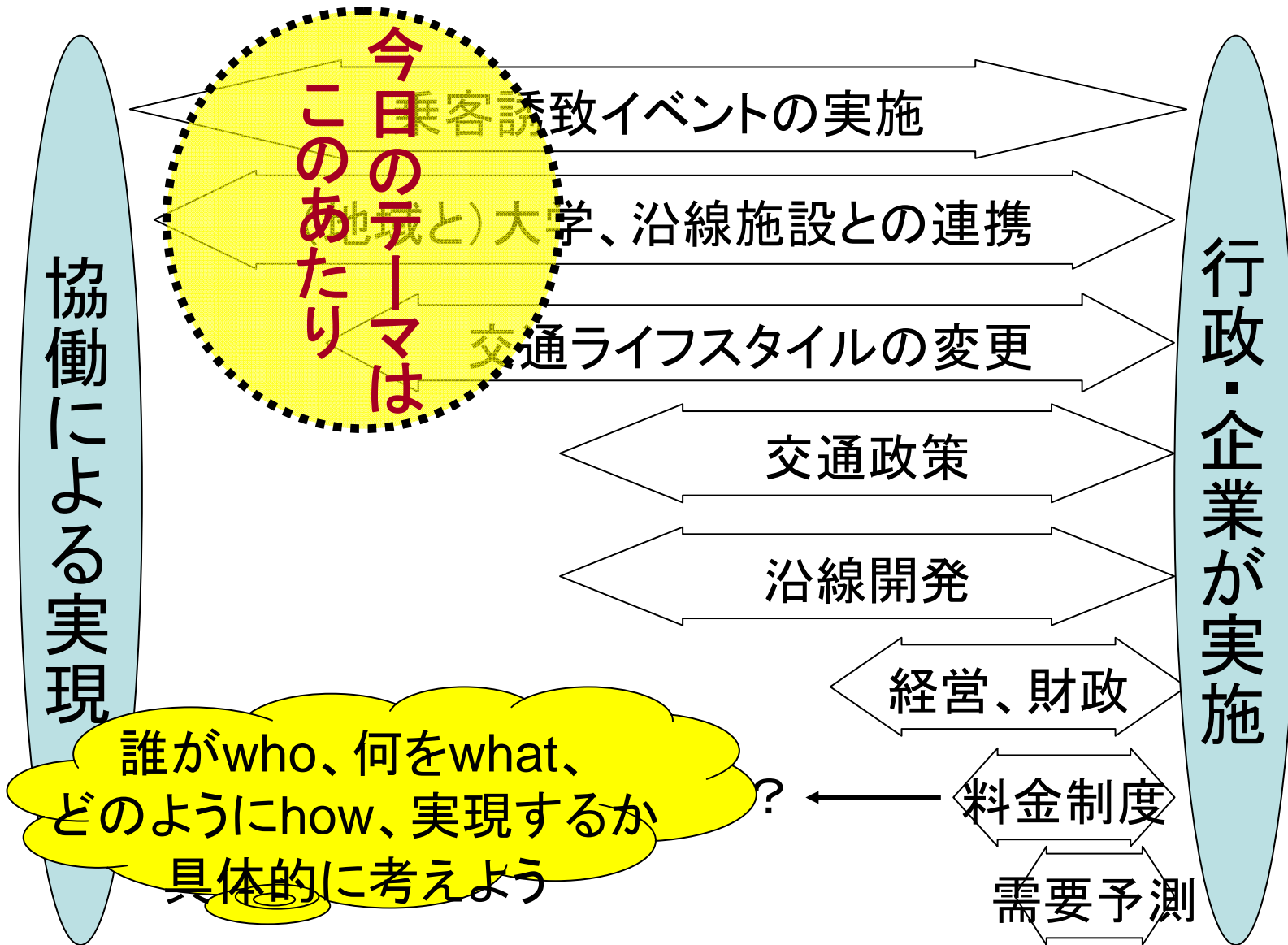
⇒ 提言書内容の継続的な協働実施を呼びかけ

# 提供資料例...実現方策の相互関連図

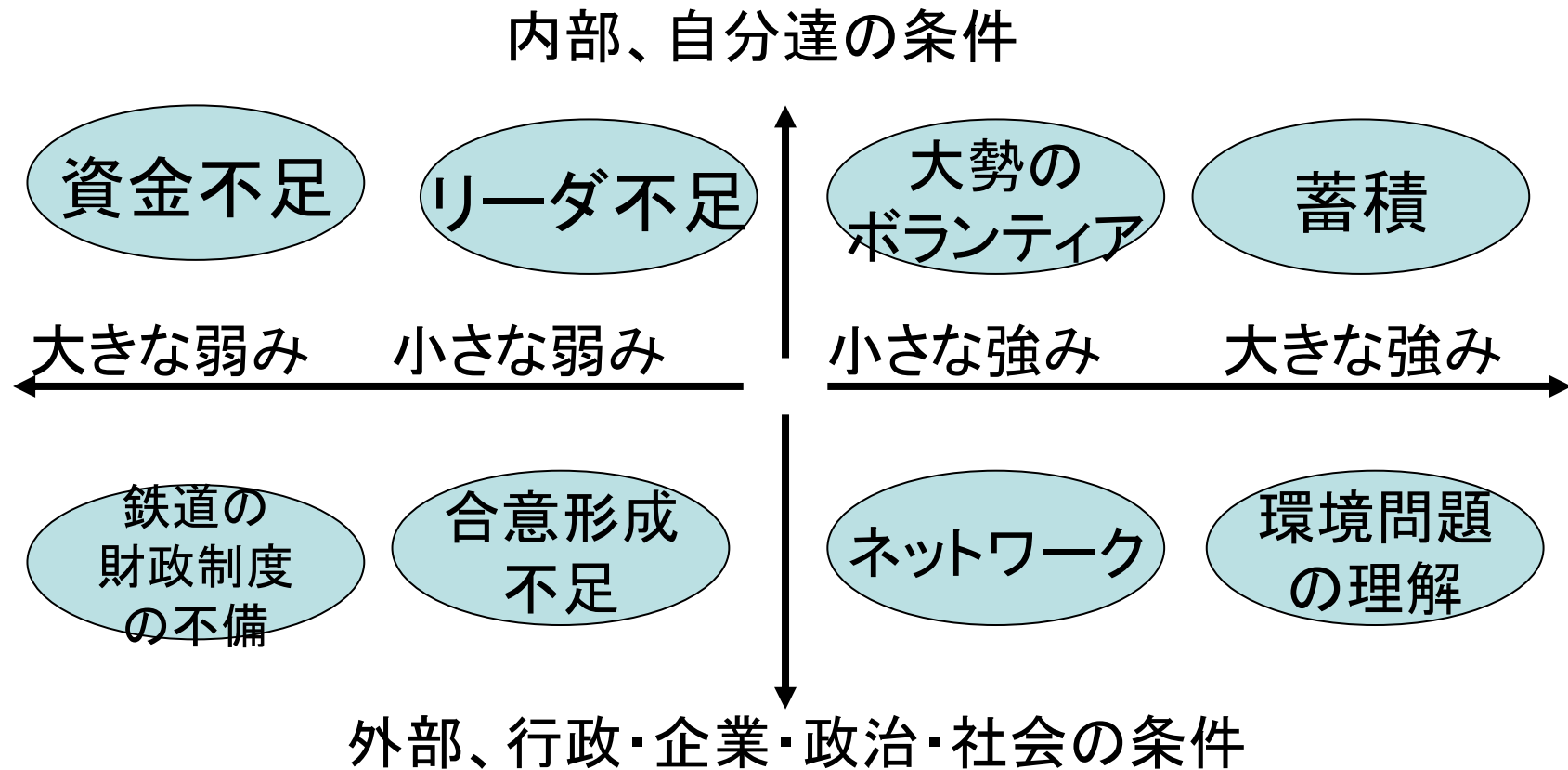




# 提供資料例... 実現方策の協働関係



# 提供資料例...協働事業の課題の解決方法の考え方



弱み＝不利な条件、危険、障害、資源の不足 など

強み＝有利な条件、機会、豊富な資源 など







# 「とことん語る会」は、WSとどこが違うのか

## 制度面で

- ①主催者は「市民団体」
  - ・PIなど行政が主催する、「民意を汲み上げる会」ではない
  - ・早く動けるという利点
  - ・市民自身の発意で実施できる＝直接民主主義の本来の姿
- ②「行政」「企業」は、専門家の一員として参加を依頼
- ③参加者は公募 ×自由参加、×無作為抽出、×選挙
  - ・市民団体では無作為抽出方式は困難 ←「代表性」の問題
- ④（できる限り...）十分な資料・情報提供
  - ・市民団体の限界 ←専門家、行政の協力
  - ・行政に不都合な情報提供も可能
  - ・気付き・自発性を重視するWSとの違い ⇒討議時間の減少
- ⑤十分な討議と協働の公約で正当性を確保

## 「とことん語る会」は、どこが違うのか②

### ルール面で

- ⑥ 対立的なテーマでの合意形成を目的とするWS  
の実験的な実施という主旨をよく説明
- ⑦ 意見の一致（議決）を目的としない
  - ・共有化と合意形成をより一歩進めることが目的
  - ・原則として多数決はしない
  - ・意見をまとめるのは質問書と提言書のみ
- ⑧ 会議は原則公開、委員は原則氏名公表
- ⑨ 話し合う内容は、テーマについて、自分達がどう考えるか（**評価**）、何をどうするか（**行動**）
  - ・単なる意見・アイデア出し、行政等への要望出しにしない
  - ・行政、企業、議会を攻撃しない（評価が違うだけ）
  - ・テーマは主催者が決定、テーマの範囲内の討議

## 「とことん語る会」の成果

- ①リニモの財政問題も絡んだ複雑なテーマであるが、市民団体が主催することにより、対立的・攻撃的でなく、内容の濃いWSを実施できることが実証された。
- ②専門家の説明、詳細な資料などにより、交通問題、財政問題、サービス改善などの重要性と困難さ、協働の重要さと困難さなどについて参加者の理解が深まった。
- ③協働実施を重視した責任のある提言・要望の抽出
- ④以上の討議により、課題の共有化と合意形成が進んだ
- ⑤以上の討議により、エコモビに対する意識の変化



# 「とことん語る会」を評価する視点

## ①モビリティマネジメント論の視点

＝住民・個人対象のWS(ワークショップ)手法の  
実験 など

## ②市民参加論の視点

＝行政の政策評価過程(計画策定ではない)への  
市民(主導的な)参加手法の実験

## ③討議民主主義論の視点

＝公募(抽出でない)による簡易な手法の実験  
＝対立的な状況の中で、市民主導の討議により  
合意形成できるかと、その効果の実験

# MMの視点からの実施効果①...WS手法

## 住民・個人対象のWS手法の実験

- 現状
- ・主にTFP(トラベル・フィードバック・プログラム)が用いられ、WS手法は用いられなかった
  - ・しかし、TFPは費用と時間がかかる
  - ・リニモでは、十分な討議が必要
- ⇒ WS方式をベースに

- 目標
- ・実験すること自体が貴重
  - ・リニモに関わる交通問題などを深く理解する
  - ・そのことによる意識と行動の変容を期待する
  - ・ステークホルダー、オピニオンリーダーの参加を期待する

効果・リニモの財政問題も絡んだ複雑なテーマであるが、市民レベルでも内容の濃いWSが実施できることが実証された。また、参加者の理解も深まった。

- ・参加者に交通行動に関する意識の変化をもたらした

\* アンケートから

質問 これまで以上に「エコなモビリティライフ」に努力しようと思えますか。

回答 A そう思う 7名 B 少しだけそう思う 6名  
C あまり思わない 1名 D まったく思わない 0名  
E その他 1名

自由記述から(一部)

- ・「今まではエコモビという発想すらなかったが今はその大切さが分かった」
- ・「エコなモビリティライフを私がすることによって他の人の意識も変わる可能性があると感じた」
- ・「個人的には努力している。仕組みづくりが必要であり、行政にどのような仕組みをつくらせるかが問題」

## MMの視点からの実施効果② ...「構造変化」について討議する手法

「構造変化」＝サービス改善・料金などのpull施策や、  
規制などのpush施策によって行動変容をもたらす

「非言語的」コミュニケーション

「言語的」手法とあわせて用いると効果的

住民・個人対象MMや特定路線利用促進MM  
において、「構造変化」について討議することを  
重視した手法の実験

構造変化それ自体を実施する前に、  
構造変化の「協働実施」を目標に討議することを  
重視した「言語的」コミュニケーション手法

現状・住民個人対象MMや特定路線利用促進MMで、  
構造変化の協働実施について討議することと、  
MMを結びつけた例は少ない

目標・市民団体主催で、構造変化の協働実施を討議  
することとMMを結びつけた実験自体が貴重

- ・その実験の効果、課題の把握
- ・構造変化の必要性、実現への課題等についての参加者の理解
- ・構造変化のニーズを主張するだけでなく、協働実施意識が生まれることを期待
- ・以上により必要性の高い構造改善項目が抽出されることを期待
- ・以上による意識と行動の変容を期待

- 効果・市民団体が主催することにより、対立的攻撃的でなく、構造変化について討議できることが実証できた
- ・構造変化に関する状況や実現に向けた諸問題について、参加者の理解が深まった
  - ・サービス改善などの協働実施について意識の変化
  - ・交通まちづくり全体を考えた質の高い要望の抽出
  - ・以上の討議によりエコモビに対する意識の変化

\* アンケートから

質問 とても良いアイデアなのにこれまで実現しなかった事例について、なぜ今まで実現しなかったのかという点について理解できたでしょうか。

回答 A よく理解できた 9名 B 少し理解できた 7名  
C あまりよく理解できなかった 1名  
D まったく理解できなかった 0名

質問 今まで参加して、あなたが「エコなモビリティライフ」について考え、努力するうえでプラスになったでしょうか。

回答 A とてもプラスになった。 9名

B 少しプラスになった。 4名

C あまりプラスにならなかった。 0名

D まったくプラスにならなかった。 0名

自由記述から(一部)

・自分では当たり前のように使っていた車という交通手段が、実は徒歩・自転車・原付・リニモなど様々な交通手段から「選択」していた行動だということに気付いた。

・リニモについて今ぐらいの規模(人数)で考えることは、自らの意識を変えることにおいてとても良いものであると思った。私のようなリニモにあまり興味を持っていなかった側の人々にとってもこういった会に参加することはとても意義があると思う。

# まとめつつある提言書 案

## ☆理解を深め共有できた課題

- ①リニモを含む公共交通ネットワークは、環境と人にやさしく便利なまちづくりに大切な役割を果たしており、「リニモを活かしたまちづくり」を進める必要があること。

## ☆合意した関係者への要望

### C 格安の休日一日乗車券の実験

かつてのバス料金に比べればリニモの料金は安くなったものの、地下鉄などと比べて割高であることは否めません。この料金水準自体を引き下げることが困難であるとしても、格安の休日一日乗車券など需要開拓を目的とした乗車券の実験的な発売を検討するよう要望します。



## ☆合意した協働の提言

私達は、次の項目について、市民と行政・関係者とが協働して実現に取り組むよう提言します。

### ア「大学・地域連携コンシェルジュ」の設置

大学間の連携を進めるコンソーシアムをより発展させ、大学と地域との連携を進めることが求められています。この連携の核となるのは、情報と人のネットワークです。しかし、現状では公開講座・地域貢献・共同イベントなどの活動が、個々の努力で続けられています。「情報と人の連携」について総合的なサポートサービスを担うコンシェルジュの設置と、このコンシェルジュが活動する「場」(場所と機会)と資金の仕組みをつくるよう提言します。

### ウ リニモ駅に「地域連携情報コーナー」の設置

市民・大学・学生・沿線施設などが、活動の情報を自由に交換・閲覧できるよう、また、アート作品などが自由に展示できるよう、市民団体が管理を委託された情報コーナーを設置するよう提言します。

### オ「リニモとまちづくり市民評価会議」(仮称)の設置

### カリニモと沿線地域にかかわるテーマについて調査などする「リニモ学」活動